

「言い切り形」が生じる文脈環境

甲 田 直 美

要 旨

日本語の会話において、述語に終助詞等の付加要素を付けない形（本稿で「言い切り形」とよぶ）の使用率はきわめて少ない。対面会話データを収集し、用いられた述語用言を調査したところ、述語用言 12,626 のうち言い切り形は 1,025 であり、わずか 8% であった。残りの 9 割以上は終助詞の付加した形や接続助詞言いさしなどであり、述部に終助詞等の付かない形である言い切り形は述部 10 回あたり 1 回以下でしか生じていない。日本語の会話において述部に終助詞を伴わないことは、無標あるいは基本的な述語の形式ではなく、むしろ会話内では有標であり、言い切り形は特定の文脈環境で特定の機能を担っていると考えられる。この機能を考察する予備作業として、言い切り形が出現する文脈環境の整理を行った。会話における連鎖上の特徴（直前の発話との関係、フロアとしての発話者）から、文脈上独立したもの、隣接発話において相手発話への応答や同意等で後半部に位置するもの、一定期間継続した自らの発話の終結部に位置するものという 3 つの文脈環境に整理し、各使用状況での特徴を記述した。

キーワード：言い切り形 文脈 ターン交替 連鎖位置 終結デバイス

1. はじめに

日本語の会話においては、発話末に終助詞「ね」「よ」や接続助詞の言いさしが多く用いられ、これらの付加要素を伴わない形式が用いられる割合は少ないとされる（メイナード 1993；上原・福島 2004；黒沢 2010）。終助詞や接続助詞等の付加要素を伴わない形式とは、例えば次のような形式である（用例中、下線は注目箇所。会話転記の記号は章末、用例末尾はファイル番号）。

(1) (出身地について)

A: 知らないですね。どちらなんですか？

B: おれ群馬です.

A: ああ群馬ですか (.) 群馬すごいですよねもう三十なん度とか. (DS800006)

(2) B: そこに女の子はいたんでしょ?

C: いた, いっぱいいた. (2011June20)

これらは、(1) は丁寧体「です」(2) は常体となっており、そのスタイル (丁寧体か常体か) に差はあるが、いずれも終助詞や接続助詞等付加要素を伴わない点では共通している。

本稿では、発話が動詞、形容詞、形容動詞の終止形で終わっているもの、これらに過去や否定、丁寧、アスペクト等の働きを持つ助動詞、補助動詞が付加していても終助詞を伴わないものを「言い切り形」と呼ぶ。これらの形式の会話における利用率と文脈環境を整理し、それぞれの文脈環境における特徴を考察する手がかりを得る。なお、丁寧の「です」「ます」については、以下で述べるように丁寧語は森山 (2000) にあるように、文体選択の議論として位置づけ、丁寧体も同様に扱うが、丁寧という意味が対人機能に関わるため、「です」「ます」体については別途 6 節で示す。

2. 先行研究とその問題点

本稿で言うところの言い切り形は、上原・福島 (2004) では「裸の文末形式」、庄山 (2014) では「動詞 ϕ 形」として考察が行われている。これらの研究は日本語の述語の言い切り形について重要な指摘を含むものの、問題も残る。

一方、Tanaka (1999) では“The *iikiri* (truncated) form without utterance-final elements” (pp. 88-91) として取り上げられ、ターン交替において終助詞等が付属した形と対比されている。本稿でも Tanaka (1999) と同様に言い切り形という呼び方を用いる。Tanaka (1999) の研究は日本語のターン交替を網羅的に扱ったもので貴重であるが、言い切り形に焦点を当てたものではないため、この形式について指摘する現象は限られる。

上原・福島 (2004) では、実際の会話において裸の文末形式が用いられる場合とはどんな場合か、会話における裸の文末形式の持つ機能について、未だ十分に解明されてい

¹ 三省堂大辞林に【言 (い) 切り】として、「末尾に用言・助詞・助動詞などがきて文が完結すること。文の終止。」とある。本稿が意図するのはこのような意味であって、「言い切る」で挙げられる「①自信や決意をもってはっきり言う。断言する。(三省堂大辞林)」で示されるようなニュアンスを意図しない。

ないとして裸の文末形式の機能と用法を考察している。例えば、(3)において、了承を表す場合、裸の文末形式が自然であり、終助詞や接続助詞を添加すると特別なニュアンスが加わってしまい、不自然な表現となる、とされる。

(3) 教師：明日学校へ来てくださいね。

学生：はい、分かりました。(裸の文末形式)

?? はい、分かりましたよ。／*はい、分かりましたね。

?? はい、分かりましたけど。(上原・福島 2004)

上原・福島(2004)では、裸の文末形式は、聞き手(との心理的距離)を意識するか否かで、そのスタイル(丁寧体か普通体か)に差はあるが、話者が意図や情報を表明したり伝達したりするだけで足りる(それ以外の聞き手に対する含みなどを加えない)場合に用いられることがわかったとしている。しかし、これらの文末形式を包括的に見た場合、問題が残る。

第1の問題点は、用法の分類と整理に関するものである。「聞き手に向けた発話」「向けない発話」という分類に加え、「その中間的なもの」、「その他」を挙げていることから、この分類の判定の難しさが伺える。また、聞き手への意識の有無という分類枠組みは、意識のあるものから無いものまでが存在し、言い切り形の機能がいったい何なのか不明のままであり、多様な用法の整合性が見つからない。「聞き手に向けた発話」としては次が挙げられている。

(4) A: だいたいわたしはスタンダードからはずれてるんで...

B: わたしもはずれてると思います。(上原・福島 2004)

もう一方の「聞き手に向けない発話」とは、次のように、聞き手を意識せず、あるいは意識していないかのように述べられた発話であるとされる。

(5) A: あー、// 寒い。

B: あー、// 寒い。

A: ほんとにさ // むいですよー。↓

B: ジャケット、持ってくればよかったー。(上原・福島 2004: 112²)

聞き手に向けたか否かという観点では、会話において聞き手を前に発話している以上、当該発話が聞き手へ向けないということを完全に否定できない。(5)の例で話者同士が

² 上原・福島(2004)では、文字化記号として↑上昇、↓下降イントネーション、//前の発話が終わる前に次の発話が始まる場合の後の発話が始まる位置を表すとされている。

「寒い」ことを共感しようとして発している可能性をぬぐい去ることは出来ない。聞き手に向けた／向けない、聞き手を意識したか否かを区別するのは至難の業である。同一形式（裸の文末形式）の機能を記述するにあたり、「聞き手に向けた発話」「向けない発話」という分類は、性質の相反する発話に使用されるとする点で、裸の文末形式の機能の解明に至っていない。上原らは、裸の文末形式の機能として、「裸の文末形式は、「聞き手（との心理的距離）を意識するか否か」で、そのスタイル（丁寧体か普通体か）に差はあるが、「話者が意図や情報を表明したり伝達したりするだけで足りる（それ以外の聞き手に対する含みなどを加えない）場合に用いられる」（109 ページ）と述べている。裸の文末形式が会話内で多様である事実に対して、それがこの形式自体の機能なのか、使用された状況から生じた機能なのか判然としない。この問題は実際の会話において裸の文末形式が用いられる場合とはどんな場合か、会話における裸の文末形式の持つ機能を統一的に解明しようとする論の問題設定との対応によって浮上するものである³。

第2の問題点は、整える余裕の有無についてである。上原・福島（2004）は、メイナード（1993）の研究「裸の“ダ体”は、相手を意識して、相手に受け入れられ易いように形成したものではなく、あたかも話者が聞き手に向けて形を整える余裕がなく、又は必要性がなく、思考や経験をそのまま表現した“裸”のままの姿のようである」（メイナード 1993: 123-124）という見解を継承している（上原・福島 2004）。しかしながら、「裸の文末形式」の後に終助詞が付く場合と比べて、余裕がないことがこの形式の積極的使用要因なのか疑問が残る。次例のように心の中で準備して告白する場合など、発話を発するまでに十分時間があり、整える余裕の有無による説明に当てはまらない。

(6) 「ずっと君のことが好きだった」（作例）

第3に、データの分量と質についての問題である。「30代から50代の女性4人の計60分をもとに、103の用例」に基づいて分析が行われているとされるが、広く一定数の用例を確保して考察する必要がある。そこで本研究では一定数の用例中において、どのくらいの頻度で用いられるのか、そしてどのような文脈環境で使用されているのか、整理を試みる。

庄山（2014）は、会話における日本語学習者の文末表現を習熟度との関連から論じ、

³ 本項で言う言い切り形、上原らの「裸の文末形式」を整理するに当たっては、言い切り形の機能を統一的に求めることの限界と問題について、社会言語学会第36回大会にて高梨克也先生、野田尚史先生よりご指摘賜りました。

留学生と日本人学生との会話における文末表現を分類し、「動詞等 ϕ 形」という項目を立てている。これは本稿の言い切り形、上原・福島(2004)の「裸の文末形式」にほぼ相当するものである。データ表によると、「動詞等 ϕ 形」は留学生 304, 日本人 263 の計 567 となっている。「動詞等 ϕ 形」の機能分類として ① 要求・応答, ② 思い出し・気づき・初耳・驚き, ③ ひとり言的・話しながら確認, ④ 同調・共作, ⑤ 眼前描写・回想, ⑥ 推測(助動詞的), ⑦ 強調(各種形式), ⑧ 丁寧, ⑨ その他(単純判叙文)の 9 項目が立てられている。庄山(2014)では「んだ文」(いわゆる「のだ文」)の多くが②(思い出し・気づき・初耳・驚き)に含まれ, ⑦の強調にも含まれるとされる。しかし本稿では「のだ文」は文脈上の関連や話者の主張を表すため、「裸の」文末形式とは性質が異なると考え, 言い切り形には含めない。庄山(2014)の分類の判断基準は明確ではなく, それぞれの特徴間の関連は明らかではないが, 事例は興味深いものである。

庄山(2014)の分類についていうと, 文末に何も付かない形式独自の機能とは一概には言えない性質のものではないだろうか。後続要素を伴わないことや音調によって強調を表したり, 「と思う」の語彙的意味によって推測の意味を担ったりしているだけで, 何も付かないことの積極的機能となっているとは考えにくい。上原・福島(2004)の「裸の文末形式」の分類においても, 「聞き手への意識が有るか否か」と, 対極的な性質を担っていることから, 統一的機能を求めることは難しいと考えられる。言い切り形は使用される環境によって一見相反するような機能を担っていることから, この形式の機能を考察する上では, 生じた文脈環境の詳細な記述が必要であると考えられる。

以下, 会話においてどのような文脈環境で言い切り形が生じたのか, その分類整理を行う。

3. データ

大学生・大学院生の対面会話, 8 時間 34 分(514 分)を録音・録画収集した。内訳は, 2 人会話 4 組(238 分), 3 人会話 4 組(276 分)である。話者 20 名の平均年齢は 21 歳(年齢幅 18-32 歳)で, 各会話に生じた述語用言(連用形, 連体形, 終止形の各活用形を含む)と言い切り形の数, 1 分あたりの述語用言数と言い切り形の数, 述語用言中の言い切り形の割合を表 1 に示す。

表1 各会話者の属性および述語用言, 言い切り形の使用

ファイル名	会話者属性			会話 (分)	用言 の数	一分あたり 用言数	言い切り形 の数	一分あたり 言い切り形	用言中の 言い切り形
1: DS800006	M21	M21		52	1,077	20.71	54	1.04	5%
2: DS800007	F20	F21		74	1,969	26.61	105	1.42	5%
3: DS800014	F20	F21		64	1,297	20.27	61	0.95	5%
4: DS800016	F32	M28		48	1,137	23.69	48	1.00	4%
5: 2011June20	M18	M18	M18	78	2,424	31.08	422	5.41	17%
6: DS800004	M18	M18	M18	114	2,875	25.22	166	1.46	6%
7: DS800009	M21	M21	M21	43	977	22.72	94	2.19	10%
8: DS800010	F22	F22	F22	41	870	21.22	75	1.83	9%
全体 (計/平均)				514	12,626	24.56	1,025	1.99	8%

以上のデータで、述語用言（動詞、形容詞、だ、です等）の総数は12,626であった。このうち、言い切り形で用いられていたのは1,025回であり、全体の8%にすぎない。会話内での述語用言の形式は大きく次の3パターンに整理できる。

- (7) 1. 終止形に終助詞（ね、さ、よ等）が付加している場合
2. 従属節を構成する中途終了形式「～て」形や接続助詞に接続する場合（主節を持つ場合と主節を持たない場合がある）
3. 言い切り形

述語用言総数に占める言い切り形の割合は1割にも満たず、非常に低い。

4. 言い切り形の範囲

本稿でいう言い切り形の範囲は、先にも述べたように、発話が動詞、形容詞、形容動詞の終止形で終わっているもの、これらに過去や否定、丁寧、アスペクト等の働きを持つ助動詞、補助動詞が付加したものである。

4.1 動詞基本形との対応

助動詞や文末付加形式の何も付かない「動詞基本形」が古代語、現代語において、ど

のような機能を担っていたのかについては、これまで考察が見られる（土岐 2003, 尾上 2001, 大木 2009, 鈴木 2009）。これらの論考で考察される対象は、動詞に助動詞や文末付加形式の何も付かない形式であって、本稿で考察するような過去、否定、アスペクト等の助動詞や補助動詞を伴った形式とは異なる。

本稿で考察する言い切り形は、過去、否定、アスペクト等の助動詞や補助動詞が付加しない、これらの「動詞基本形」に加え、過去、否定、アスペクト等の助動詞を付加したものを含むものである。この点において、述語の付加要素が担うとされる機能、例えば、否定の「～ない」は判断のムードを含むこと、アスペクトは視点と関係すること、丁寧の「です」「ます」は聞き手めあての性質を持つといった点が問題と思われるかもしれない。

しかしながら、例えば隣接関係の後半部で用いられる場合を考えると、(8) が動詞基本形であるのに対して、(9) (10) (11) はそれぞれ丁寧、過去、アスペクト表現を含む。これらの助動詞が付加していても、対話における話者交替で相手の発話をオウム返しのようにそのまま受けている点では共通している。したがって本稿では、考察の目的のために、これらの表現を一括して扱う。

(8) A: 行く?

B: うん, 行く, 行く。

(9) A: 行きますか?

B: はい, 行きます, 行きます。

(10) A: 食べた?

B: うん, 食べた。

(11) A: 知ってる?

B: うん, 知ってる。

4.2 ～ノダ形

黒沢 (2010), 庄山 (2014) では～ノダ形も含めて計算されているが、本研究ではノダは文脈上の関連や話者の主張を表すため、「裸の」文末形式とは性質が異なると考え、言い切り形には含めない。

黒沢 (2010: 5) では用言全体ではなく断定の形式「です」「だ」に絞って、これらの使用状況について調べている。しかし、文末を「だ」「です」に限定することは、さ

まざまな動詞「食べる、食べた、行く、行った、行きました…等」を扱うことが出来ないため、助詞の付かない形が会話内で持つ機能を探ることが出来ない。名大会話コーパスを調べた結果として裸の文末形式より助詞付き文末形式のほうがはるかに多かったとされる。

4.3 上昇イントネーション

次のような述部が上昇イントネーションで終了する場合はデータに含めない。

(12) A: いや: だからさ:

B: はい.

A: 避難所大変じゃなかった?

B: 避難所は確かにあの: 外の: 外に: なんか (DS: 800016)

(13) B: 九州とか行かれたことあります?

A: あのね (.) 通過だけ: (DS: 800016)

このような発話末が言い切り形式で上昇イントネーションの場合は 68 例であったが、疑問を表す終助詞「か」が付加していなくても上昇イントネーションによって疑問の意味が含まれており、考察から除外した。

4.4 命令

形式としての言い切り形が担いうるものは、この他に、命令が考えられる。

(14) さっさと歩く!

(15) さあ買った, 買った!

しかし、命令は待遇的に低い位置にあり、社会的に使用可能な範囲は親が子供を叱る場合など、非常に限られたものになっている (土岐 2003)。本稿データは学生同士の親しい会話であり、命令で用いられていた例はなかった。

4.5 他に想定される用法

動詞基本形として議論されるものとの関わりでいうと、尾上 (2001) では、動詞終止形一語文の用法として「非現実事態の側」を挙げる。それによれば、

「来るかなあ」「(きっと) 来る」(推量)

「本当にひとりで行くつもりか」「行く!」(意志)

「なにしてるんだ。(さっさと) 歩く！」(命令)

「なんとかまわってほしいなあ。まわる〜〜〜！」(願望・要請)

が挙げられている。現代語の終止形は事態をただその事態として言語化するだけの述定形式であるとされ、

「ことばで仮構された非現実事態、現実にはないある事態の絵づらが発話の現場に裸でほうり出されたら、それが有効な表現として存在する可能性は、その仮想内容の存在承認か希求しかあり得ない。話し手の経験的現実の中にない事態が(いつか・どこかで)存在することの主張とは「推量」にはかならず、その非現実の事態の希求がほかならぬ「意志」「命令」「願望・要請」なのである(尾上 2001: 223)」

と述べられている。命令が本稿データに存在しないことは先に述べたが、推量、意志、願望・要請については、述語の現在形(非過去)の持つ性質として、推量とのつながりが考えられ、また動詞の場合、その動詞の持つ意図性のみを用法として取り出すことは難しい。森山(2000)は次のような例を挙げ、

(16) 僕は帰る。

(17) 彼はおかしいと思う。

「内容めあて」と「聞き手めあて」との分別は非常に難しい(2000: 10)と指摘している。また、

(18) 今日はいい天気だなあ。

のように、終助詞であっても「聞き手めあて」とは考えにくいものがあると述べ、「聞き手めあて」という機能上の特性と終助詞という形式の位置づけについて、単純な対応関係は仮定できないと述べている。そして、形態とその意味機能には重要な相関はあるが、文の構造を考える上で絶対的なものではない(森山 2000: 11)、と述べられている。

形式と用法の対応について、本稿で扱う言い切り形が終助詞を後続要素として持たない形式であることから、何も付加しない動詞(16)(17)の持つ意図と言ったモダリティ要素の認定を無視していると思われるかもしれない。しかしながら、文末形式とモダリティ要素の対応について、単純な対応関係を仮定しているわけではないが、いったん言語形式の有無(すなわち終助詞の有無)によって整理することが、まずは必要であるように思われる。

5. 言い切り形が用いられる文脈環境の整理

言い切り形 1,025 例は、会話における連鎖上の特徴（直前の発話との関係、フロアとしての発話者⁴）から以下の3つに整理できる。

(19) 言い切り形が用いられる文脈環境（（ ）内は表 2、図 1 における名称）

1. 文脈上、独立している（単体）
2. 隣接する相手の発話に後続する（隣接関係後半部）
3. 連続する自らの発話の終結部におかれる（連鎖終結部）

2 は相手の発話を受けるのに対して、3 は話者が一定期間発話を継続（フロア：相手の相槌等を挟む場合もあるが、実質的発話が一定期間継続）し、その終結部に位置する点で異なる。直前の発話との関係から、前の発話を受ける隣接関係後半部、連鎖終結に対して単体が区分され、さらに相手の発話を受ける隣接関係後半部と、フロアである自らの発話を受ける連鎖終結が区分される。隣接関係後半部は相手発話の繰り返しや質問に対する応答、直前の発話への同意/不同意、相手発話の補完など、隣接する直前の発話に直接反応し関係づけるものである。単体は文脈上独立⁵して用いられ、発話の宛先を特定しないかのような形で提示する。

表 2 は、全体 (1,025 例) における各類の分布を示している。隣接関係後半部が多く（全体の 57%）、ついで、単体 (33%)、連鎖終結 (10%) の順となっている（図 1：全 1,025 例中）。

以下では、文脈環境による整理にもとづいた用例の特徴を考察する。

⁴ ターンを有する場合でも相槌や短い叙述など back-channel (Duncan 1974) に留まる場合と区別し、主たる話し手を継続する現象を指すためにフロア (Edelsky 1981) という概念を用いる。

⁵ 文脈上独立している単体と隣接関係後半部には類似点もある。例えば、言い切り形で多用される動詞に直前の発話への理解を表す「分かる／分からない」があるが、本稿では隣接関係後半部に分類した。会話中に他の話者の発話を受けて「分からない」と発話する場合には直前の発話を受けている点で隣接関係後半部として扱ったが、ヤジや意見のように自己主張する場合は単体に近い点もあり、連続的な面もある。

(47) (女性の体格について話している)

B: うん (.) ちゃ - 中学校って結構みんな細いし - =

A: =うんうんうん.

B: ってか. 高校より (.) =

A: =分かる分かる. (DS800007)

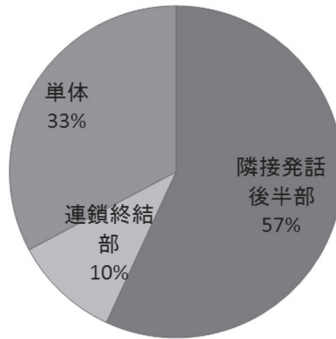


図 1 言い切り形の使用状況 (1,025 例中)

表 2 言い切り形が用いられる文脈環境の分布

	単体	隣接発話後半部	連鎖終結部	計
全体	336 (33%)	583 (57%)	106 (10%)	1,025 (100%)

5.1 文脈上, 独立している (単体)

5.1.1 自己完結しているもの

次例では, 主食について話者 B が自分の好みを述べている。

(20) (主食について) B: 昼パスタで夜米とかがいい. (DS800007)

(20) は先行発話に求められた発言というわけではなく, 個人の意見を述べたもので, 思いつきやその場の状況を単独で開始する際に用いられていた。

(21) A: 実はね: 私もやってんだけど (.) 学習塾.

B: はい.

A: hh 今ね (.) 社会もた h さ h れてる. 社会と英語. なぜか国語が来ない.

B: hhh 国語はあてるよって感じですよねほんと hh (DS800016)

(22) A: 調味料難しいと思う. お酒とかね :::: (DS800010)

(21) は A が務める学習塾での担当教科を報告している。

(22) は 3 人会話からの例であるが, 話者 A は他の話者 B または C を直接, 宛先指定としていないかのように, 聞き手目当て性を極力減らすかのように終助詞「ね」「よ」等を用いずに見解を述べているように思われる。このような事例は多人数会話である 3 人会話で多用されていた。

これらの例は, 報告を自己完結しているかのような形で提示している。

また、自己紹介⁶では、次のように言い切り形が多用される。

- (23) 出身地は：(0.8) 秋田です。趣味は：(1.0) °ん°とバスケと：バレー：, と：バドミントンとかのこ：(.) 球技一般です。(DS80007)

このような自己紹介における言い切り形は、直前の発話への関係表示や連続する発話の終結を示すものとも異なる。特定の聞き手との関係の中で情報の価値が決まってくるのではなく、個々の情報は完結しており、単に情報を提示する点、特定の宛先へ向けないかのように提示される⁷点に特徴がある。

典型的に言い切り形となっているものとして「ありがとうございます」「おはようございます」等挨拶表現や、「お願いします」「分かりました」等がある。本稿データでの自己紹介場面で、常体で会話している話者同士がその場面だけ丁寧体を用いる場合が見られ、対面する相手が既知の内容であるにもかかわらず、定番的自己紹介の内容として述べる(同学部、同専攻分野であるのに学部名や専攻名を言う、氏名を知っているのに氏名を言う等)際に言い切り形を用いていた。

情報を提示する次の発話も特定の相手を志向しないという点で共通している。次の3人による会話では、ディズニーランドの話題の中で、話者Cが自らが所属する部での計画を述語言い切り形によって提示する。

- (24) (ディズニーランドのアトラクションの話をしていて)

A: スプラッシュマウンテンとか超怖いかんね＝

C: =ん:::なんかさ::: (.) ディズニーランド行こうぜ計画がちょっとボート部で持ち上がってる。

A: [いいね]

⁶ 本稿の会話資料にはそれぞれ最初の数分のみ自己紹介を含んでいる。これは会話者が初対面だからではなく、会話の録音状況に慣れるため、そしてデータ整理の利便性を考え会話者の特定のために指定した。ここでは自己紹介を挙げたが、話し言葉におけるレジスター、パリエーションにおける言語使用の違いについては今後考察が望まれる。またこれと同調して、話し言葉のデータを取得する際のデータの偏りへの配慮も必要になる。また、本稿データ5は言い切り形を多く含むが、本稿の3分類における使用率に際立った特徴はないものの、重複・倒置が多いこと、言い切り形によって話題を提示してもその話題が長く継続せずに別の話題に移行する点で特徴が見られた。現段階において、話し言葉データの均衡は今後の課題である。

⁷ 対面会話であるにもかかわらず、このように記述することについて補足しておく。(23)の会話データ全体は親しい友人同士の会話であり、打ち解けた常体のみを用いていたが、この部分のみ丁寧体を用いられていた。発話形式があらかじめ定まっているかのように決まり文句的に発せられ、発する前に上を向くなど、聞き手へ宛てて発する発話と異なった特徴が見られた。

B: いいね.: (DS800004)

このような提示の仕方は、直前の発話へ直接関連づけるというよりも、情報や思いつきを特定の聞き手へ向けないかのような形で提示するものである。日本語においては聞き手に対する話し手の配慮として知識の共有への言及や対人的機能を担う表現が頻繁になされる(益岡 1991; メイナード 1993)。このような中であって、その部分だけ言い切り形を用いると、独立して切り替えたように、発話・伝達のもダリティが希薄で言表事態めあてのモダリティが卓越した形(仁田 1991; 白川 1992)で、いわば素材的に提示することができる。言い切り形によって特定の聞き手という宛先をマスキングするかのような形で提示され、モダリティの切り替えとなる。言い切り形は終助詞等の後続要素を伴わずに、そこで表現が完結するため、表現が単体として言い放つものとなる。宛先を持たないかのような形であることによって、3人以上の多人数会話では、会話の参加者に次話者が開かれている形で提示することが可能となる。

5.1.2 現場で生じた感情や反応

その場で生じた感覚、感情等を発する際に言い切り形は用いられていた。(25)は「疲れた」というその場での感覚を、(26)は高校生の時に理系クラスだったという発言をうけ、その場で「かっこいい」と反応している。

(25)

01A: 立ってればいいじゃん

02C: え?

03B: 立ってればいいじゃん

04C: それは嫌だよ

05B: なんなんだよお前は

→ 06C: でも疲れた

07B: 疲れた (2011June20)

(26)

A: そうそうそう. だから3年 [ときうち理] 系クラスだったから: =

B: [かっこいい:].

A: =クラスちがくて. (DS800007)

次例では、スカイプのしくみについて知らなかった話者Aが、BとCの発話を聞いて、とっさに「頭いい」と反応している。

(27) B: 無料で電話できるから: [いんじゃね: ? みたいな.

C: [夜まで 夜まで.

A: あ: そうか. あ (.) 頭いい. (2011June20)

事例では, 大地震の際に懐中電灯はあったが電池が切れていたエピソードに対して「つかえない」と笑いながら反応している。

(28)

01A: なんかいざ地震なって (.) つけるか (.) って思ったら
電池切れて [んの. hhhh].

02B: [hhhh. 使 h え] h な h い h.

03A: そ (.) 全然使 h え h [な h い h].

04B: [使えない]. (DS800007)

(25)~(28) で下線の言い切り形が, その場での感覚・感情, 反応として用いられている。言い切り形が発せられた後, 次の話者が同様に相手の用いた言い切り形を繰り返すことが多々ある ((25) 07B, (28) 03A, 04B)。この場合繰り返されて言い切り形が使われた場合は, 次節で整理する隣接する前の表現を受けるタイプに整理した。

本節で整理した例は, 特定の相手へ向けた発話⁸というよりも, 自らの感情をとっさに発したものである。言い切り形はこの他に, 上原らが指摘するように感覚をそのまま述べたり (例 (5)), 独り言のように述べたり, ヤジ⁹などの投げ捨てるかのような発話形態で用いられていた。このような用法は「思考や経験をそのまま表現した“裸”のままの姿」(メイナード 1993; 上原・福島 2004) として採り上げられてきた。これらの発話は, 「話し手が発話を発し, それを聞き手が受け取る」という参与枠組みにおける宛先指定としてのアドレス性を極力減らすことによって達成されている。

5.2 隣接する相手の発話に後続する (隣接関係後半部)

言い切り形が現れる環境として, 直前の相手への反応を示す場合がある。

⁸ Goffman (1981) は聞き手の身分として, 会話の参与者としての聞き手のうち, その発話が宛てられた者と傍参与者の区別が指摘されている点で重要である。しかし, 参与の枠組みにおける会話分析的研究は, 参与の枠組みに対応して用いられる言語形式との対応を扱ったものではない。

⁹ 例えばヤジは承認された会話参与者以外のものによって発せられる。言い切り形は脳からちゃちゃを入れる場面でも多用されていた。フロア (継続的に発言権を占めること) を取得しようとせずに会話に参加する場合に多用されていた。Goffman (1981) では正式にフロアを占めない参与者が会話内でする評価表現が「脇道として括弧付きのコメント」として発せられる場合について述べられている。

5.2.1 質問-応答

質問に対する応答として言い切り形が用いられている。

(29) A: B さん四階?

B: はい四階です (.) (DS800006)

5.2.2 同意, 不同意

直前の発話への同意 (30) (31) または反対 (32) などがある。

(30) A: てかみんな初対面だったらそんな明るくいけない [でしょ.

B: [うん (.) いけないいいけない. (2011June20)

(31) (群馬県の県の形について)

A: はいはいはいそういえば群馬っていえばやっぱり (.) 群馬出身の友達がいるんですけど

B: あ::はいはい

A: あの県の形が鳥の形になってる

B: そうです鶴です鶴です (0.5) 鶴の形ですよ¹⁰. (DS800006)

(32) C: 関西系のノリだな

B: いや, 関西関係ない. (2011June20)

これらの用例では、直前の前件にすぐ反応する手段として言い切り形が用いられている。(30) (31) では述語が重複して用いられているが、重複することにより直前の発話への同意を強めることができる。言い切り形を 2 回以上重ねて発することにより、強い意向 (この場合、強い同意) を表す事が出来る。

質問に対する応答の場合、終助詞「ね」「よ」を用いると不自然になる (例 (29) → *はい四階ですね) か、特定の意味 (→はい四階ですよ: ことさら聞き手へ向ける) を持つため、末尾に終助詞を付けない形である言い切り形が積極的に選ばれる (大曾 1986; 益岡 1991; 白川 1992)。質問への応答としては、「相手が持っている」と想定される知識のあり方との異同を表明する (益岡 1991: 96) 「ね」「よ」を用いずに、言い切り形のみで答える方が、疑問文を発する際の知識の見積もりに一貫性を持って答えるこ

¹⁰ (31) では言い切り形の後に「鶴の形ですよ」と終助詞「よ」が付加されているが、本稿データの他の事例でも、直前発話に近接した位置で直前発話への反応 (応答や同意, 不同意等) として言い切り形が用いられ、その後終助詞が付加されていた。

とができる。問われた側に局在する情報の場合 ((1) など) には、この使い分けは顕著になる。隣接する表現への一貫性という特徴から、直前の表現に十分近接した位置に言い切り形は置かれる。

直前の発話への関係づけとして、言い切り形を話者交替後の早い段階で提示することがある。次の例では、述語「行かない」の対象と倒置することで、より早い段階で前文脈への関連づけ (肯定／否定) を明示している。

(33) (ディズニーランドに車を運転して行くかについて)

B: ディズニーランド

C: いや運転では行かない (.) ディズニーランドは (2011June20)

以下の例も述語を早い段階で提示し、詳細をそれに後続させることにより直前の発話への対応を明示している。

(34) B: え: でも: 私: 海: 泳いだことない (.) 海で.

A: そう. うちもないんだよ.

B: え:: ないの: ?

A: ないないない. 海: の砂遊びはしたことがあるけど: 中入って泳いだことはない. (DS800007)

(35) (大学の部室で寝泊まりすることについて)

A: うん (.) だから夏の間さ: (.) 普通に泊まってるってゆうか夏の間部室で過ごしますみたいな人いたもん去年.

B: あいるんだ [やっぱ. hh

A: [いるいる (.) 電気代かかんないし. hみたいな (DS800014)

以上の例は、隣接する発話に続いて言い切り形を発することで、質問への答えを与えたり、前接発話への同意、不同意を表している。

5.2.3 リサイクル

直前の発話との関係を表すものとして、直前の発話を繰り返すことで、いったん相手の発話を受領し、了解を表す場合がある。

(36) (剣道の胴着の暑さで水分が足りなくなることを述べている)

B: °な (.) なんすかね (.) けん° (1.0) 剣道やってなにが (.) きついんすか (.) あれですか (.) あ: の (.) やっぱあっついことですか

A: う [::ん (.) 暑い暑い

B: [こう (.) 蒸れるとか

A: 水が:::(.) もう (0.5) 足りなくなる

B: 水が足りなくなる hh (DS800006)

この例では、話者 A が汗で水分が足りなくなることを「水が足りなくなる」と表現したことへの可笑しさを話者 B は、同一表現を再利用（リサイクル）して笑いながら繰り返すことによって示している。

(37)

01B: 最近うん小説だね. ノンフィクションとかそういう [: のはあんまり.

02A: [へ::.

03C: ノンフィクション.

04C: [へ::.

05B: [みたいなのは. 読まない.

06A: あ. 読まない hh [hh.

07B: [hh.

08C: 読まない hhh.

09B: フィクション (.) フィクションを [読むの.

B が趣味が読書だと語っている場面であるが、どのようなジャンルを読むかと想定していたところへ「読まない」ジャンルを述べたため、06A で A は笑いと共に言い切り形「読まない」を繰り返し、続いて C も 8C で言い切り形「読まない」を繰り返している。

5.2.4 相手発話の補完

(38)

01C: いや (.) あの (.) なんかね ::: 最初は場をね ::: (.)

あのなん [かね ::: [そう (.) 盛

02A: [盛り上げるために [やった

03C: もり上げるっていうか話はずますためにさ ::: (.) 自らの身をね (.)
犠牲にしてやってたんだけど

(38) では、01 での C の発話を補完するように A は述部「盛り上げるためにやった」と続ける。次でも同様に、03A の発話の後続部を 04B が言い切り形で続ける。

5.2.5 言い直し

次の例では、04B で相手発話の補完を言い切り形で述べた後、05A で直前の 04B の発話「もう消えてる」を 05A で「切れてる」に言い直している。

(39)

01A: そうですね. ただ: (.) 岩波って: (2.0) ま絶版っていうか

02B: はい.

03A: 版が:: =

04B: = もう消えてる =

05A: = 切れ [てる.

06B: [はい.

07A: のがあるんでそういうのはちょっと h 値段が高い. (DS800006)

以上の例は、隣接する相手の発話に続いて言い切り形を発することで、質問への答えを与えたり、前接発話への同意、不同意を表している。

相手の質問への応答では、依頼-受諾/拒否などと共に、先行発話（質問）によって何らかの応答が社会的に期待される隣接ペア (Schegloff & Sacks 1973) を形成している。これに対して同意/不同意は先行発話によって求められた反応ではなく、先行発話を受けての见解を後続発話によって遡及的に特徴づけるものであり、この点で隣接ペアとは異なるが、5.2 節で整理した事例はいずれも隣接する発話同士の依存的関係を表す点に特徴がある。

5.3 連続する自らの発話の終結部に位置するもの

会話内で一方の話者が継続して実質的発話を語る¹¹ ことがある。3 番目に整理されるのは、このような語り末の終結部に位置するものである。

(40) (自分の出身地について)

B: 自慢じゃ決して自慢じゃないんですけど (.) 一応皆さんに言うんですけど.

A:: うん

¹¹ 「連続する発話」とは実質的内容を持った発話を指す。(40) では「うん」という受領を挟んでいるが、これらの相づちや応答はバックチャンネルとして発言権を侵さないため、実質的発話者交替が生じているとは見なさない。

B: 日本で (.) 一番人口の少ない県庁所在地です.

A: ほんと? (DS800016)

受領の「うん」を挟むものの、実質的に続いていた話者 B の連鎖が言い切り形の後で終結している。その後の話者 A による真偽確認 (ほんと?) によって、この部分が B による情報提供の一つの区切りとの理解を A がしたと考えられる。言い切り形を用いることによって、発話連鎖が終結することを明示することが出来る。なおかつ発話行為の相互作用上、特筆すべきなのは、言い切り形によってフロアを占めていた語り手から発言権の譲渡がより明確になるということである。

次の例も同様に主な話者 C のエピソードは言い切り形の結末で終わり、それに B が笑いながら反応する。

(41) (もみじ饅頭を買ったが腐らせてしまったエピソードを語る場面)

C: もみじまんじゅうはさ:, とりあ [えず.

B: [もみじまんじゅう広島のどこでも売って
てるよ =

A: =うん.

C: そう. いや宮島で: わざわざ買って: ,

B: かわんなくねえ? hh [実際.

C: [買ってお土産: 持って帰って: 渡すの忘れて: 冷凍庫に入れてたの.

A: う: ん.

C: あの: 腐らないように. そしたらカビ生えてた.

B: hh もみじまんじゅううまいのにもったいない. (2011June20)

(42) B: 地雷ならねけっこうね見た目系は地雷やん (.) だからあんまり踏まないようにそこらへんはね (.) 避けて通ってる.

C: あ:: そうなんだ. (2011June20)

これらの例で述語言い切り形は、一定の長さ継続した発話の終結をマークしており、会話分析研究で指摘される exit technique (Tanaka 1999: 49) として用いられていると考えられる。自らの発話を言い切ったことを明示し、相手に発話ターンを譲渡するサインとして機能している。

5.4 言い切り形とターン交替

言い切り形は 1,025 例のうち、87% である 893 例が言い切り形の後にターン交替が生じており、その割合はきわめて高い。言い切り形の後に同一話者が発話を継続していたのは 132 例 (13%) に過ぎなかった。ターン交替が起こらなかった例 132 例のうち、重複が 71 例 (例 (34), (35) など)、倒置が 19 例 (例 (33) など) であったが、これら 90 例は言い切り形の後に発話が継続する場合であっても、話者は発話を短く打ち切る¹² 傾向があった。言い切り形が使われる状況として、直前の発話を受け隣接対を完了する、一定の長さの発話連鎖を終結させるという点で、そこで発話を打ち切るという特徴がある。

6. 丁寧体「です」「ます」

「です」「ます」のような丁寧形態について、これらは益岡 (1991) のように、「聞き手めあて」のモダリティとして取り上げられることがあるが、森山 (2000: 11) では文体の選択として扱われている。

(43) 彼は来るよ。

の「よ」が聞き手に呼びかけるような機能 (いわば注意喚起機能) を持つのに対して、

(44) 彼は来ます。

という丁寧形態は、文体の選択という以上の機能は持たないと述べられている。この違いは無視できなく、そもそも、「彼は来る。」のような「常体」も、その限りでは、「聞き手めあて」としての「常体としての文体的意味」を持っていることが述べられている。このような点から、丁寧語は文体選択の議論として位置づけ、モダリティの基本的議論の段階では分別する立場を取っている (森山 2000: 11)。本稿では、丁寧体を含め、文脈環境の整理を行ったが、丁寧体 (です/ます) が言い切り形で出現したのは本データ中 79 存在した。その文脈環境は表 3 の通りで、これら丁寧体を除いた言い切り形の整理は表 4、図 2 である。

丁寧体を聞き手に対するモダリティの一種として捉える立場 (益岡 1991 等) や、言い切り形の特徴を考察する上で聞き手に向けたものであるか否か (上原・福島 2004)

12 田中 (1999) には言い切りがしばしば韻律上有標化され突然ターンが終了することが指摘されている。

表 3 丁寧体の言い切り形

	隣接関係後半部	連鎖終結	単体	計
丁寧体	26	13	40	79

表 4 丁寧体を除いた 946 例中の割合

隣接関係後半部	連鎖終結	単体	計
557 (59%)	93 (10%)	296 (31%)	946

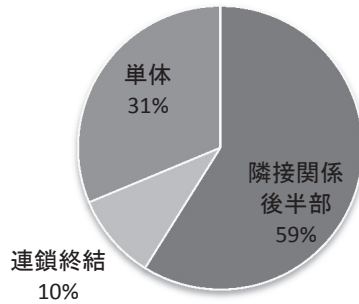


図 2 丁寧体を除いた 946 例中の割合

を考慮し、丁寧体を除いた言い切り形式の整理を示す。本稿データでの丁寧体は親しいながらも学年差のあるペアの会話（ファイル番号 DS800016）で下の学年に相当する話者と、笑いを交えながら親しく会話していたが話者の専攻がそれぞれ異なるペア（ファイル番号 DS80006）に多く見られた。

次は質問と応答に当たる箇所では、話者 A、B ともに丁寧体を用いている。

(45) (再掲) (出身地について)

A: 知らないですね。どちらなんですか？

B: おれ群馬です。DS80006

この他に、親しく常体で話しているながらも、会話途中で文体を切り替える場合も見られた。

(46)

C: えっそれじゃ付き合ったのその子と？

B: 付きあってない hh 付きあってない そいつ何かチョ :: こいつめんどくさいねとか言って二人で hhh めんどくさいねって紹介したやつとっしょに hhh (1.0)

A: 難しいな :: 本当に えっ C さんなんかないの [色恋沙汰

C: 僕な [い です

B: 色恋沙汰ないの? えちよお前共学だからあるんじゃない? =

話者 C は常体で話していたが, A による質問に対して丁寧体を用いて距離をもって回答している。本稿整理で, (45), (46) が隣接関係の後半部にあることでは共通している。

7. お わ り に

本稿では, 会話で用いられる言い切り形の文脈環境の整理を試みた。使用される文脈環境から言い切り形の特徴を考えてみたい。隣接関係後半部を表すものと, 一定数以上続く節連鎖の終結を示すものは, 1 発話以上の範囲で機能している。言い切り形が後続要素を伴わずに断言し終結することから, 発話連鎖の終結やターン譲渡の機能を担い, また, 終助詞等の付加要素を伴わないことから, 話し手-聞き手の役割関係における宛先としての聞き手の役割を切り替え, これによって傍参与者であるかのように脇から発言したり, 多人数会話での次話者選択に関わっていた。

単体で用いられるものは, 前後の関係表示に関わるというよりは, 終助詞等の付加要素を伴わないことが独り言であるかのように見せるなど, 話し手-聞き手の役割関係における宛先としての聞き手の役割と関係がある可能性がある。隣接する相手発話の後半部に位置するものは, 疑問-応答などの隣接対を完結させたり, 相手発話への同意や否定などを与えていた。連続する自らの発話の終結部に位置するものは, 言い切り形が後続要素を伴わずに断言し終結することから, 自らの発話連鎖の終結の明示が主たる話し手のターン譲渡の機能に関わる可能性がある。しかし, ここで指摘した機能は, 言い切り形が必ず応答や同意に用いられ, 言い切り形の後に必ず発話が終結するといったものではない。言い切り形が文脈内で置かれる位置と相俟って, 言い切り形の特徴が利用されているのである。終助詞を伴わない文法形式としての言い切り形が, 会話中の特定の連鎖位置で, 疑問に対する応答や語りの終結といったコミュニケーション上の機能を果たしているのである。会話内で話者は, 特定の連鎖位置に反応し, その位置をも文脈情報として利用 (位置に敏感な文法: *positionally sensitive grammar*: Schegloff 1996: 76) し, 文法形式を選択している。

本稿で試みた言い切り形の文脈環境の整理は、言い切り形という形式のみが持つ機能とは言えないものの、文脈の流れの中での位置と言い切り形の機能との関連を探る一つの手がかりとなる可能性がある。

隣接では、その文脈に依存した形で成立している。これに対し、語り末では、言い切ることが後続しないことによって終了の面が全面に出ている。言い切り形全体を覆う統一的機能を探ることは難しく、それぞれ類似の用法についての詳細な記述が必要となろう。一定の会話における生起環境を整理することによって、今後の言い切り形の機能を考察する基盤としたい。

◇本研究は、2015～2017年度科学研究費補助金の助成を得ています（基盤（C）15K02468「自然談話構造理解のための、音声情報に基づいた談話標識の研究」研究代表者 甲田直美）。本研究の一部は社会言語学会第36回大会（2015.9.6 於・京都教育大学）での口頭発表の成果を含んでいます。会場にて沖裕子先生、高梨克也先生、岡本雅史先生、森篤嗣先生、野田尚史先生（コメントを頂戴した順）よりコメントを頂戴しました。本稿を作成する過程で考察の範囲設定に関し有益なコメントを多くの方から頂戴しました。ここに御礼申し上げます。

【記号について】

主な転写記号は次の通りで、Jefferson（2004）が開発し、西阪（2008）が日本語用に用いた転写方法に基づく。[発話重複の始まり／] 発話重複の終わり／[[発話同時開始／ = 発話が途切れなく密着していること／(1.2) ポーズ（数字は秒数）／(.) 短い間合い／ :: 音の引き延し／ - 言葉が途中で途切れた／ . 下降の区切り／ ? 上昇調／ h 呼気音／ h. 吸気音／語 h 語 語の中に呼気が含まれる

【引用文献】

- 上原聡・福島悦子（2004）「自然談話における「裸の文末形式」の機能と用法」『世界の日本語教育』（14）109-123.
 大木一夫「古代日本語動詞基本形の時間的意味」『国語と国文学』86-11, 21-31.
 大曾美恵子（1986）「誤用分析 1 “今日はいいい天気ですね。”—“はい、そうです。”」『日本語学』5-9, 91-94.

- 尾上圭介 (2001) 『文法と意味 I』 くろしお出版
- 黒沢晶子 (2010) 「名大会話コーパス」に現れた文末形式：普通体と丁寧体に違いはあるのか』『山形大学留学生教育と研究』 2, 3-11. 山形大学
- 白川博之 (1992) 「終助詞「よ」の機能」『日本語教育』 77, 36-48.
- 庄山建一 (2014) 「会話における日本語学習者の文末表現－文末表現の種類別出現率と習熟度との関連－」『接触場面における言語使用と言語態度 接触場面の言語管理研究』 11, 57-72.
- 鈴木泰 (2009) 『古代日本語時間表現の形態論的研究』 ひつじ書房
- 田中博子 (1999) 「第 5 部会話分析 発話構造の日英比較」『筑波大学東西言語文化の類型論特別プロジェクト研究報告書』 pp. 445-468. 筑波大学
- 土岐留美江 (2003) 「古代語と現代語の動詞基本終止文－古代語資料による「会話文」分析の問題点－」『社会言語科学』 6-1, 74-88.
- 西阪仰 (2008) 『分散する身体－エスノメソドロジー的相互行為分析の展開－』 勁草書房
- 仁田義雄 (1991) 『日本語のモダリティと人称』 ひつじ書房
- 益岡隆志 (1991) 『モダリティの文法』 くろしお出版
- メイナード泉子・K (1993) 『会話分析』 くろしお出版
- 森山卓郎 (2000) 「基本叙法と選択関係としてのモダリティ」 森山卓郎・仁田義雄・工藤浩 (著) 『日本語の文法 3 モダリティ』 岩波書店
- Duncan, Starkey, Jr. (1974) On the structure of spaker-auditor interaction during speaking turns. *Language in Society*, 2, 161-180.
- Edelsky, Carole (1981) Who's got the floor? *Language in Society*, 10(3), 383-421.
- Goffman, Erving (1981) *Forms of Talk*. University of Pennsylvania Press.
- Jefferson, Gail (2004) Glossary of transcript symbols with an introduction. In G.H. Lerner (ed.) *Conversation Analysis: Studies from the First Generation*. pp. 13-23. Philadelphia: John Benjamins.
- Schegloff, E.A. & Sacks, H. (1973) Opening up closings. *Semiotica*, 8-4, 289-327.
- Schegloff, E.A. (1996) Turn organization: One intersection of grammar and interaction. In E. Ochs, E.A. Schegloff, & S.A. Thompson (Eds.), *Interaction and grammar*. pp. 52-133. Cambridge University Press.
- Tanaka, Hiroko (1999) *Turn-taking in Japanese Conversation: A Study in Grammar and Interaction*. John Benjamins.

Contextual environments of the “*iikiri*” form without utterance-final elements in Japanese

Naomi KODA

The purpose of this paper is to describe contextual environments of the “*iikiri*” form without utterance-final elements in Japanese. In Japanese natural-occurred conversation, bare predicate final form was rarely used. In collected data, only 1,025 (8%) from 12,626 predicate forms were used. To elucidate the function of the “*iikiri*” form without utterance-final elements, this study described each case of the datum in contextual environment, and classified three contextual situations ; 1. single use, 2. last part of adjacency utterance, 3. sequential final. “Bare predicate final forms” without final particles such as “*ne*” or “*yo*” can not be considered basic nor unmarked style in Japanese conversation ; it is employed to perform the marked conversational action.

Keywords : “*iikiri*” form, context, turn taking, sequential position, turn-exit device